

# 「県立高等学校入学者選抜制度の今後の方向性について（提言）」について

## 1. 現状と課題

- ・前期（特色）選抜の不合格体験は、中学生にとって精神的な負担が大きい。
- ・中学校において、あまりに早く進路決定した生徒の学習意欲が減退している状況がある。
- ・子供たちが自分の能力・適性や意欲等に合った学校選択をしているか疑問がある。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応のため入試時期が早くなったことで、中学校において、学習保障、行事の変更、入試事務の面で負担が大きくなっている。
- ・入試の回数が多いことや入試時期が早くなったことで、生徒や保護者が手続きに追われている。
- ・行事の多い時期に何回も入試の準備等を行う必要があり、高校側の負担も大きい。
- ・前期（特色）選抜を実施していない高校では、入試にスクール・ミッションを反映できない。等

### ◆改善の方向性として必要とされる観点

- ・学習保障
- ・中学校から高校への学びの接続等を踏まえた基礎学力の育成
- ・生徒や保護者が進路について考える時間の確保
- ・中学校及び高校の負担軽減
- ・地域及び学科の特色や各高校の教育方針の反映
- ・多様な観点による受検先の選択
- ・多様な能力・適性や意欲等の評価

## 2. 改善の方向性

- ①前期（特色）選抜と後期（一般）選抜を一本化する
- ②受検生全員に学力検査を課す
- ③受検生の多様な能力や個性等が評価される制度にする
- ④高校が自校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーを反映して選抜できる制度にする

①前期（特色）選抜と後期（一般）選抜の入試日程を一本化し、1回の受検で複数の観点から選抜することが望ましい。

②選抜方法の大枠については県で統一し、具体的な選抜方法については学校の裁量を認めることが望ましい。

### ＜改善した制度における選抜方法のイメージ＞

#### 〔選抜の手順〕

- ①すべての受検生に学力検査を課す。
- ②各高校は、学力検査の得点等を用いて、選抜の観点の異なる選考①及び選考②による選抜を順に行い、合格者を決定する。

#### 〔選考①及び選考②の順序〕

（例1）各高校において、学力検査の得点等を用いて、先に選考①（学力検査重視）を行い、続けて、選考②（特色重視）を行い、合格者を決定する。

選考①（学力検査重視） 〔募集定員の一定割合〕	選考②（特色重視） 〔募集定員の一定割合〕
----------------------------	--------------------------

（例2）各高校において、学力検査の得点等を用いて、先に選考①（特色重視）を行い、続けて、選考②（学力検査重視）を行い、合格者を決定する。

選考①（特色重視） 〔募集定員の一定割合〕	選考②（学力検査重視） 〔募集定員の一定割合〕
--------------------------	----------------------------

#### 〔統一事項〕

- ・すべての受検生に学力検査を課す。
- ・1回の受検で、選考①及び選考②による選抜を実施する。
- ・すべての学校が選考①及び選考②を実施する。

#### 〔今後の検討事項〕

- ・選考①及び選考②の選抜の順序についての考え方
- ・選考①及び選考②で募集する割合の基準
- ・選考①及び選考②の対象者についての考え方（特色重視の選考をすべての受検生が受検するかどうか等）
- ・学力検査を実施する教科の配点や調査書における評定の配点の基準
- ・面接、実技検査、小論文等の実施の有無
- ・具体的な選抜の日程（出願・選抜・合格発表、検査時間割等）等

## 3. 入試時期

- ・子供たちの学習保障を第一に、中学校生活を最後まで充実して過ごすとともに、それぞれの進路についてじっくり考え、中学校3年間の学習を確実に終えて受検に臨めるような実施時期が望ましい（3月上旬）。
- ・公私立を超えて、本県の子供たちの学力を保障するという観点から、私立高校の入試時期についても併せて調整することが必須である。

## 4. その他

- ・制度変更する際は、3年程度の周知期間と幅広い情報提供が必要である。
- ・引き続き各高校の魅力化を進め、各高校及び各学科の特色を入試に反映できるようにすることが必要である。